

島の水瓶『ため池』治水プロジェクト概要

淡路島は日本一ため池が密集する地域であり、ため池は重要な地域資源

水稻の作付面積(水利用)の減少に伴い、ため池に新たな活用の可能性

近年、局地的な集中豪雨の発生等により河川が溢水し、浸水被害が多く発生

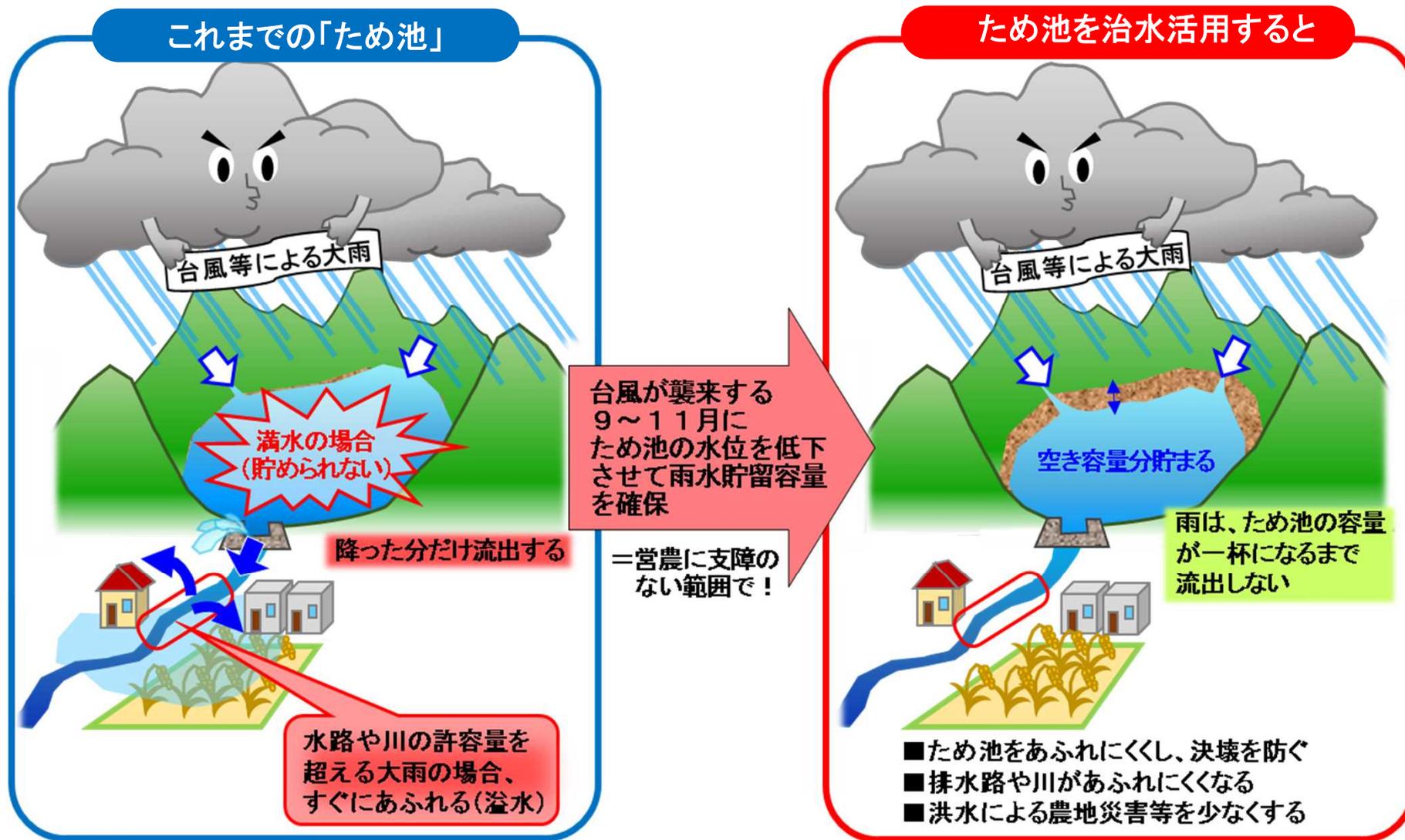
ため池の持つ洪水調整機能を最大限活用し、下流の浸水被害を軽減！

→ため池の新たな働きに応じ、施設の健全な保全を支援



台風前に落水した状態のため池
(H26.10 淡路市志筑 黒田池)

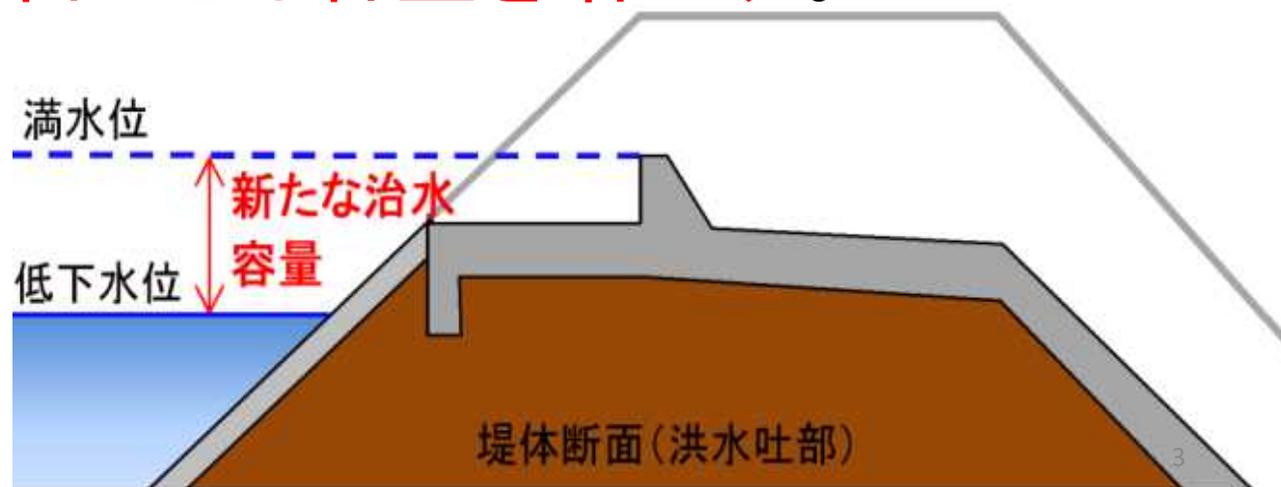
島の水瓶『ため池』 治水プロジェクト概要



『ため池』による治水とは

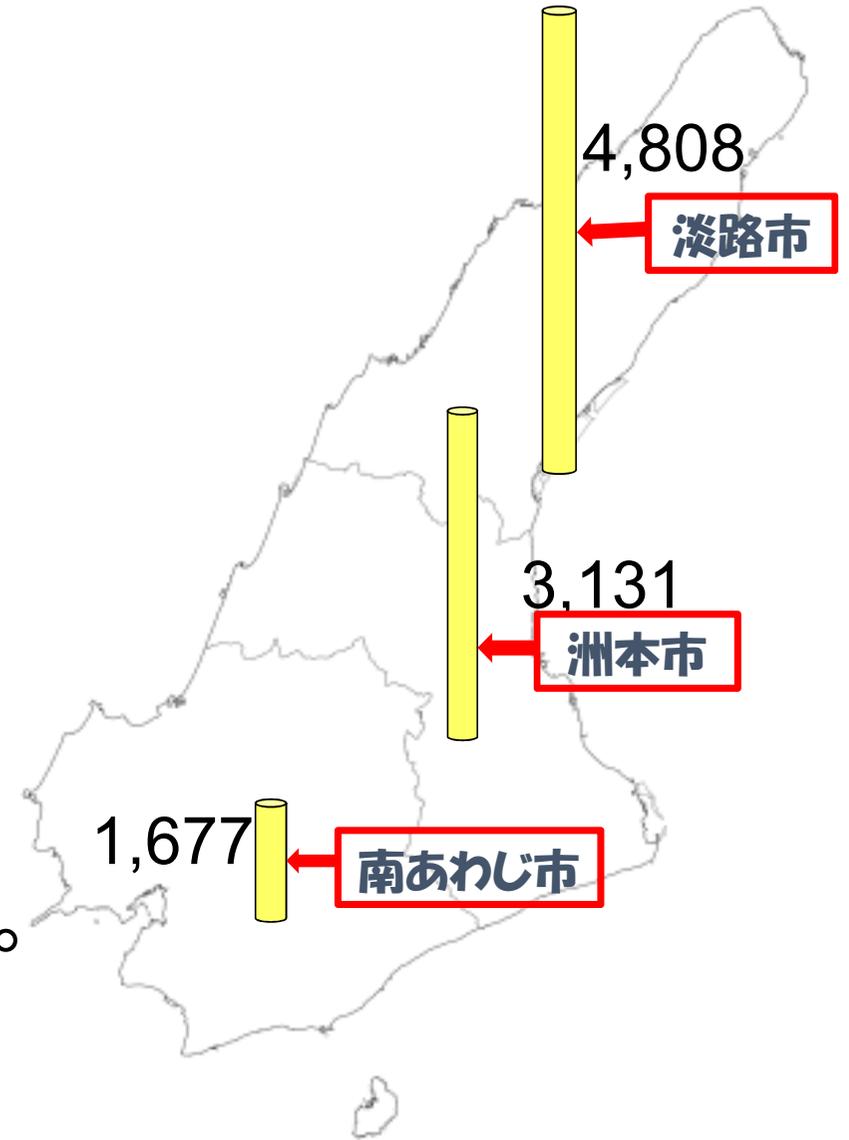
ため池を活用して洪水を抑制すること！

- ・ため池が有する“**雨水を一時的に貯留して下流の洪水を緩和する働き**”を最大限活用し、下流域への洪水を抑制。
- ・具体的には、営農上支障のない範囲で、**台風前などに水位を下げ、ため池に貯留できる容量を増やす。**



淡路島のため池数

- ・淡路島内には約1万箇所のため池がある。
- ・北部(淡路市、洲本市)は小規模な谷池が多く、南部(南あわじ市)は大きな皿池が多い。



ため池活用の効果 その1

・台風時の河川水位の低減

平成28年9月の台風16号では、最大1時間雨量95mm(洲本観測所歴代2位)を記録する豪雨が発生。

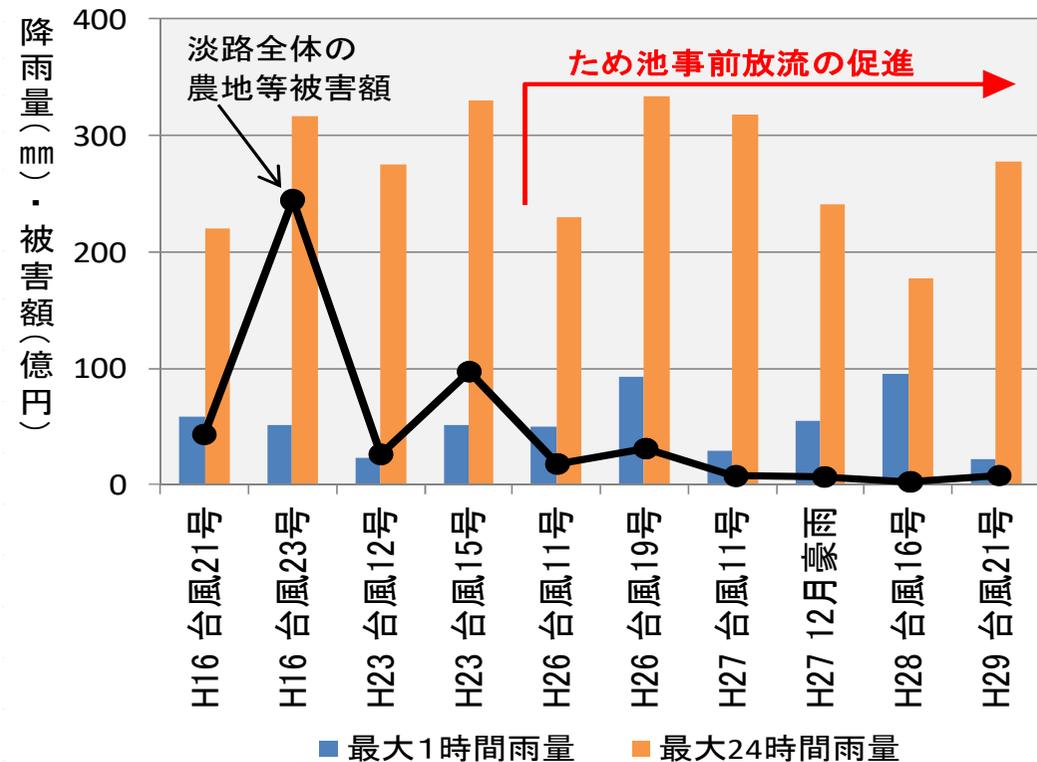
洲本川では、ため池の事前放流等により、特定ため池165箇所¹の貯留により、河川へのピークカットが4%見込まれ、桑間地点で11cm水位低減に貢献したと推測される。

ため池活用の効果 その2

・農地災害等の低減

過去に大災害をもたらした規模の降雨も発生していますが、事前放流の取組が開始された平成25年度から、農地・農業用施設災害は年々、減少傾向となっています。

降雨量と被害額の推移

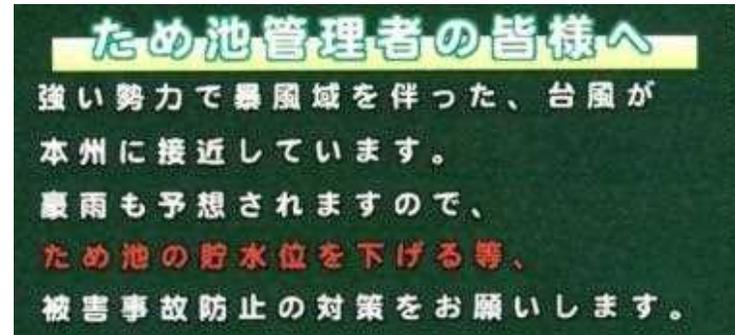


事前放流の普及啓発＜ソフト対策＞

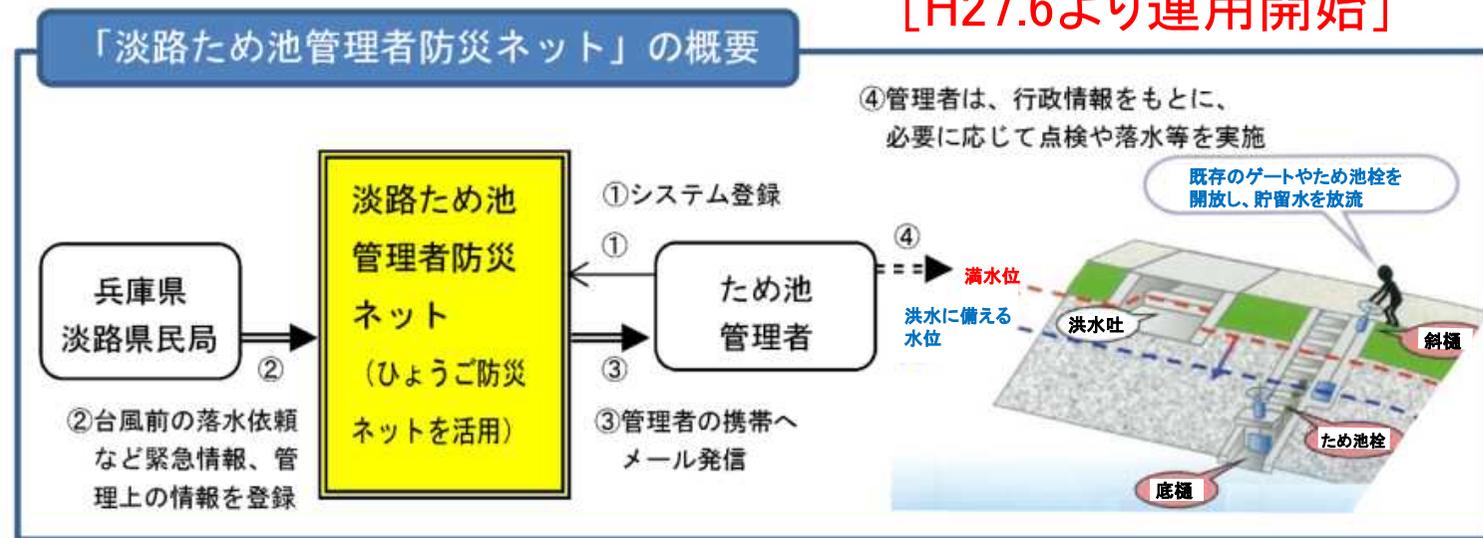
～台風前や秋に落水をすることが当たり前の行動へ～

事前放流の呼びかけ

- ① CATV、防災無線、電話による
周知・依頼（右図：南あわじ市CATV）
- ②「ため池管理者防災ネット」による管理者へのメール送信



[H27.6より運用開始]



事前放流施設の整備<ハード対策>

～ため池管理者が取り組みやすい構造へ～

①「ため池栓」を設置



満水位から1～2m
下がりのところに
「ため池栓」(お風呂
の栓のようなもの)
を設置

写真:土取池(洲本市)

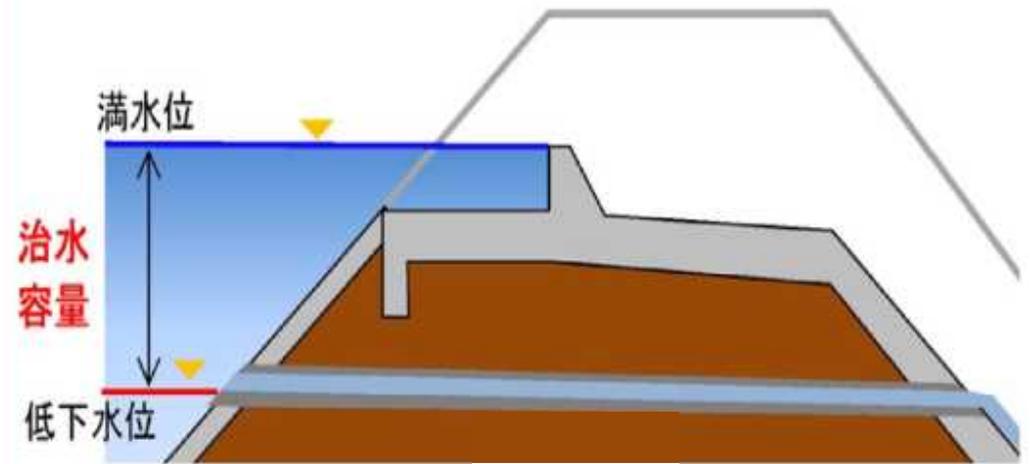
事前放流施設の整備<ハード対策>

～ため池管理者が取り組みやすい構造へ～

②「洪水吐放流ゲート等」



洪水吐切り欠き



放流工

淡路島内の取組状況

- 96のため池で事前放流施設を整備し、
うち、76箇所が総合治水条例の指定貯水施設に指定

市名	H29迄	H30	R1	R2	計	R3(予定)
洲本市	34	9	3	4	50	7
南あわじ市	15	6	1	4	26	3
淡路市	12	3	3	2	20	3
管内計	61	18	7	10	96	13
条例指定※	44	16	12	6	78	18

- 県、市、ため池管理者が協力して、事前放流を実施。

花岡池の概要

【位置】

南あわじ市神代国衙

【概要】

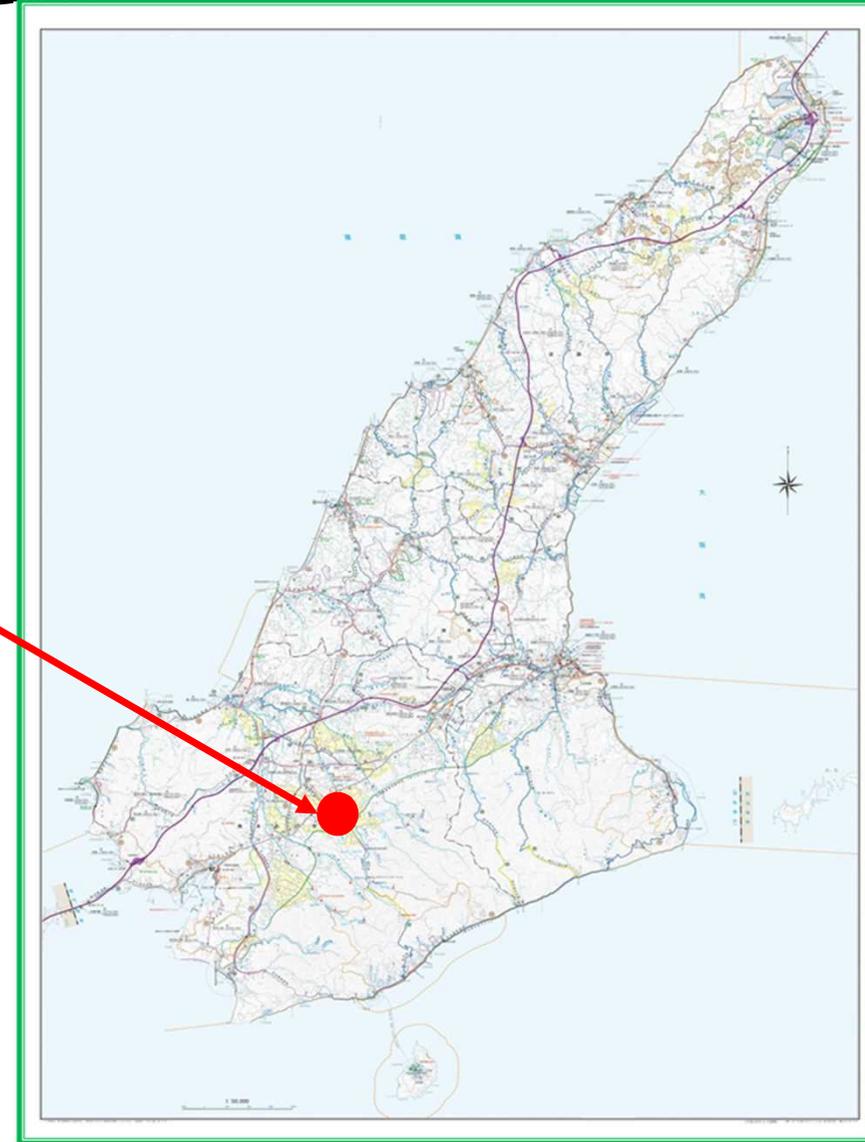
受益面積:43ha

貯水量:200,000m³

満水面積:4.61ha

堤高:9.0m

堤長:871m



花岡池の概要



花岡池の概要

【改修履歴】

- 昭和47年 県営大規模老朽ため池改修事業により改修
- 平成27年 経営体育成基盤整備事業「こくが国衛地区」により
取水施設を改修
- 災害事業により北側堤体を改修

【管理組織】

- ・田主員 117名
- ・総代3名(1名は会計兼任)
- ・評議員12名

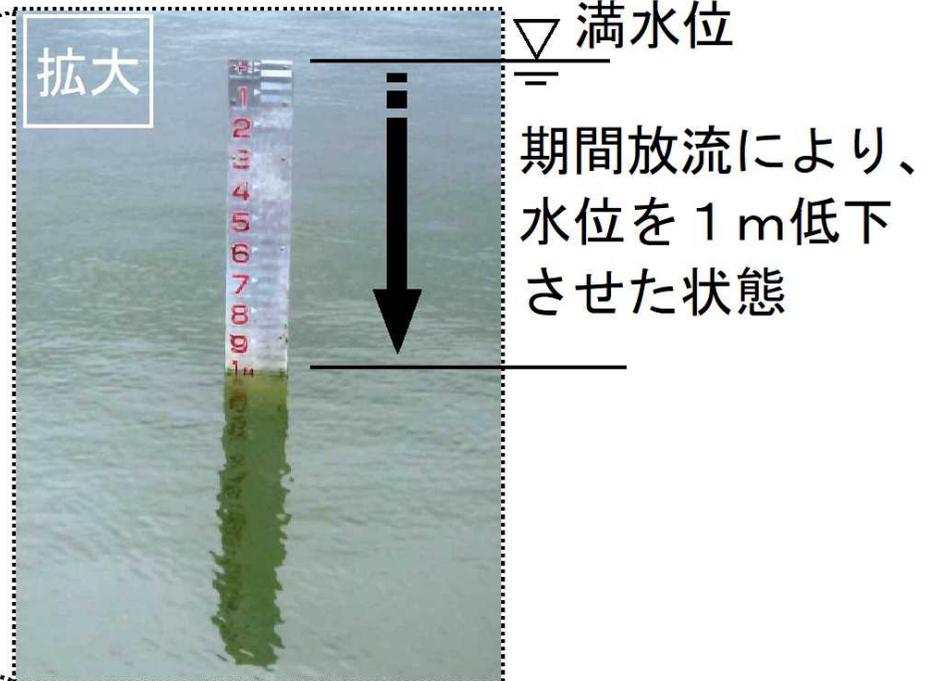
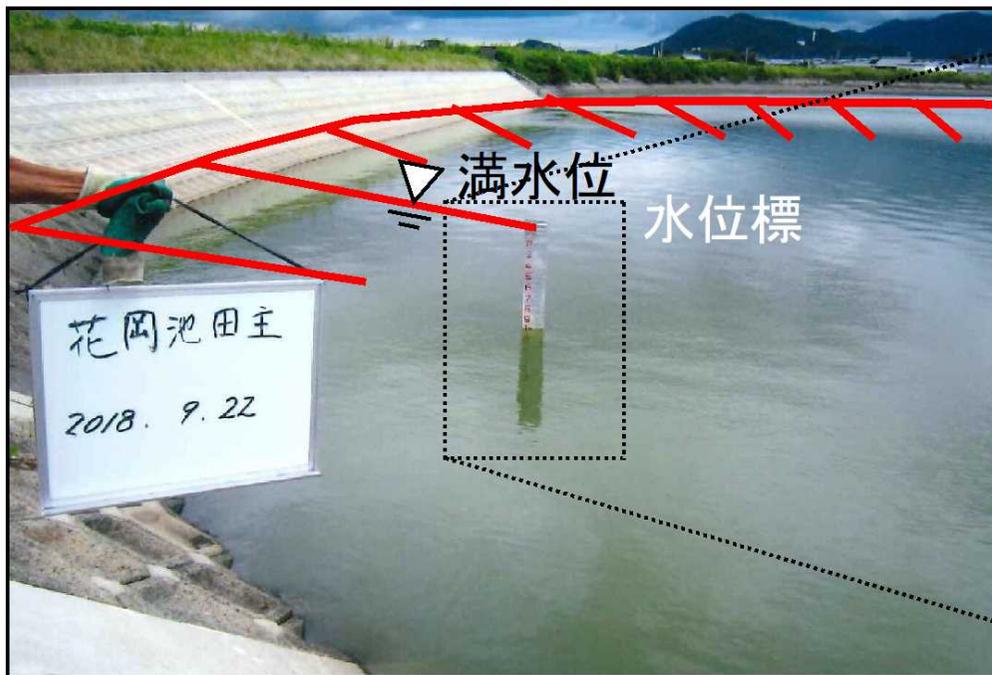


治水プロジェクトに取組ことになった経緯

- ・淡路島では、台風23号(H16.10)により大きな災害が発生。ため池約1,300箇所が被災し、約200個が決壊し、農地農業用施設の被害額は241億円にのぼるなど大きな被害を受けた。
- ・県、市からの啓発
これらの被害等も踏まえ、県、市から積極的な働きかけがあった。

花岡池での取組内容

- 9月から翌年4月は、満水位から1m下げて水位管理
(治水容量43,300m³)



花岡池での取組内容

- ため池栓 $\Phi 150$ を設置し、容易に水位管理が可能



県下で初めて指定貯水施設に指定

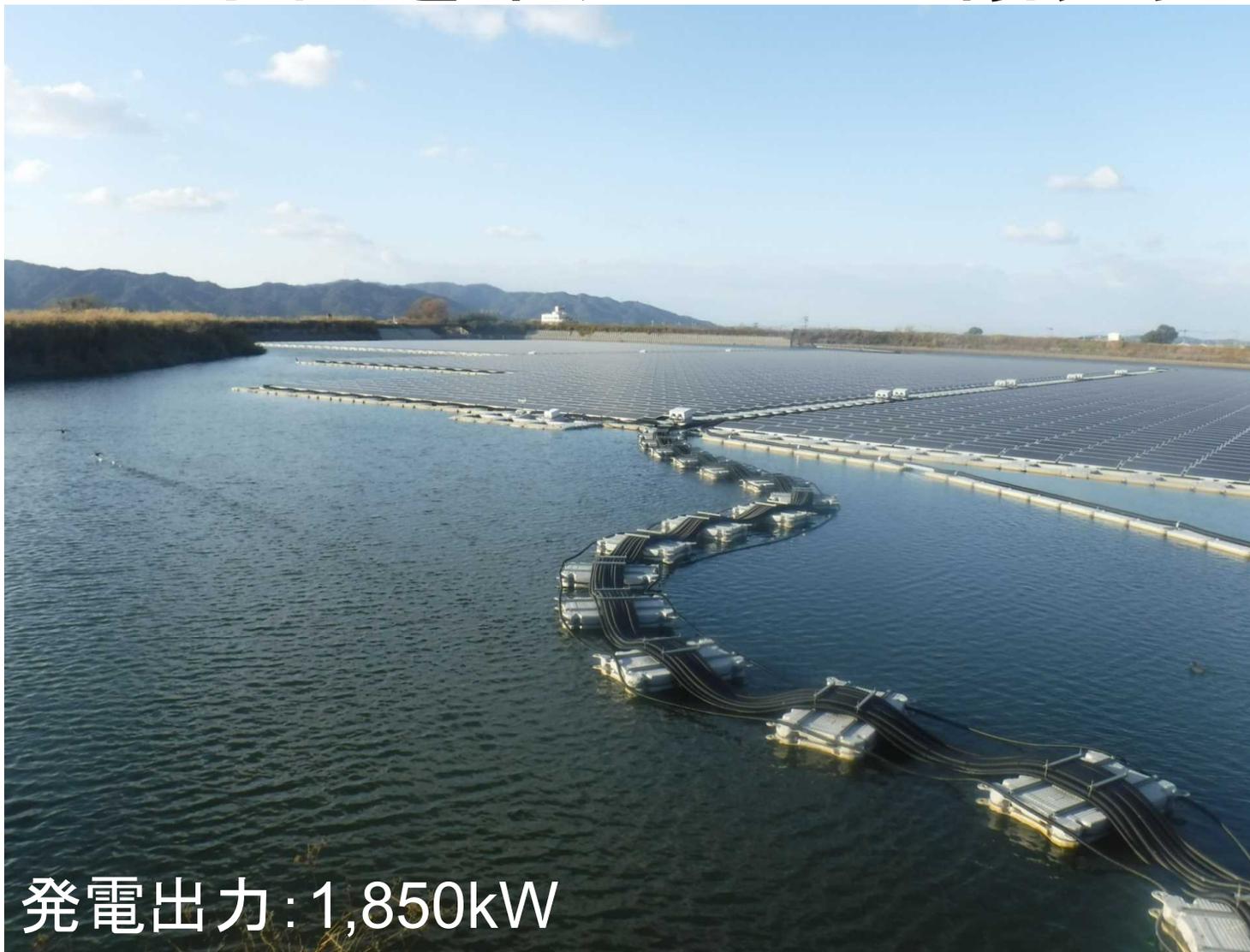
- 平成28年1月、総合治水条例に基づく「指定貯水施設」に県下で初めて指定された。



ため池水面を活用した太陽光発電

- 多面的機能支払交付金を活用しつつ、
ため池の保全に努めていた。
- しかし、現状でも一部漏水があることから、
次期改修工事をにらみ、工事資金の積立が必要となった。
- 資金醸成のために太陽光発電で収益を得て、保全に活用。

ため池水面を活用した太陽光発電



経営体育成基盤整備事業「国衙地区」

- ・用水不足解消（パイプライン化により用水効率が改善）

施工前



施工後

